

新たな施設に関してユニバーサルベッド設置の考え方は

県の基準を参考に施設の目的、利用者のニーズ等を考慮し検討する



ないとう ひろし
内藤 浩
新政田原自民クラブ



障害のある方との地域共生社会実現に向けた取り組みについて

問 障害のある方との地域共生社会実現に向けた推進体制は。

答 障害福祉関係機関や病院、当事者やその家族等で構成する田原市障害者自立支援協議会が検討した結果を受け、新たな障害福祉制度の創設や各種制度の周知および研修を実施することで、推進体制を取っている。

問 ダイバーシティ&インクルージョンの理念を広めるための本市の取り組みは。

答 障害分野において、今後も田原市障害者自立支援協議会を中心に、関係機関との連携等により障害に関する理解を広める取り組みを行う。

問 障害児やその家族が希望する、地域生活の継続に必要な取り組みは。

答 相談機関として、田原市子ども相談支援事業所を設置している。また、個別のニーズに応じた福祉サービスや、日常生活用具給付事業等の給付制度利用への案内など、地域生活を継続していくための支援を行っている。

問 本市において、誰もが使いやすい公共施設のユニバーサルデザインへの取り組みは。

答 県の条例や田原市人にやさしい街づくり整備方針等を踏まえ、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた設計を心がけている。

問 新たな施設の整備が見込まれる中、これらの施設に関して、ユニバーサルベッド設置の考えは。

答 県の基準を参考に施設の目的、利用者ニーズ等を考慮し検討する。



コミュニティバス運行事業について

問 ぐるりんミニバス中山線デマンド運行実証実験を通して、どのように運行方式を決定するのか。

答 デマンド運行と定時定路線のそれぞれのメリットとデメリットを踏まえつつ乗車人数を比較するとともに、新たに広げた区域のバス停や時間帯ごとの乗車人数などの実績のほか、利用者アンケートの結果を基に検証する。これらの情報を基に、田原市地域公共交通会議において、デマンド運行導入の可否をはじめ、中山線にふさわしい運行方式について検討し決定していく。

問 デマンド運行のメリットは。

答 自分に都合の良い乗車時間を予約することができる。また、路線運行ではなく区域運行にすることで、利用実態に合わせてバス停の設置場所を増やすことができる。

実証実験を通じた運行方式の決定方法は

実績やアンケート等を基に検討し決定する



ふるかわ ゆきひろ
古川 幸宏
自由民主党田原市議団

